〔和漢名數三篇醫家〕採藥根二時本草　二月春宜早　八月秋宜遲　居家必用曰、春正月、秋九月爲佳、陶弘景云、花實莖葉、各隨其成熟爾、

〔三代實錄十三清和〕貞觀八年九月廿二日甲子、是日○中略從五位上行肥後守紀朝臣夏井配土佐國、○中略夏井天性聰敏、○中略又閑醫藥之道、配土佐之後、自行山澤採藥、合練以施民、民多得其驗、嘗有一人、中風被髮狂走、夏井與一匕散藥以令服之、此人立瘉、皆此之類也、

〔閑散餘錄上〕本草ヲ講究シテ、物產採藥ヲ事トスルコトハ、向井玄升、靈蘭先生ト號スヨリ始ルトイフ、稻生若水ニ至テ尤盛ナリ、貝原篤信モ、本草ヲ好ミ、大和本草ヲ著ス、

〔平賀鳩溪實記二〕平賀源內儒學講釋の事

源內は、日々に門弟はふへ、名は高くなり、殊更採藥などに出るには、本草に委しき故、近國の醫師聞傳へて、二三百人も弟子付ければ、暫時金銀も出來、差支もなかりける、門弟中相談して、何卒此先生を、當所に留置たき者也と工夫し、各申合せて、稽古所普請を取立んと相談一決しければ、下○略

〔東遊記下〕藥品、此地○松前より出で、賣買するもの、熊膽臙脂ばかり也、藥草多けれども、漁利におほはれて採製するものなし、予がきゝたるもの四五品を玄るす、附子上品也、竹節人參あり、先年江戶より採藥に來られし醫師、江差の島にて、三椏五葉のもの三四根を得て持歸りしといひ傳ふ、蝦夷人は、人參の事を、五葉草といへり、人參あること疑ひなし、

〔勢州採藥志〕文化元年甲子之秋七月廿一日、廿二日、勢州志州採藥可仕旨被仰渡、○小野蘭山

〔海外事類雜纂四〕植學獨語

植學及び採藥旅に有用とする書籍器械の事

一花實解剖の圖說　一各國所產草木の名集　一藥鑽　一花筒　一腊葉帖　一腊花鋏板　一